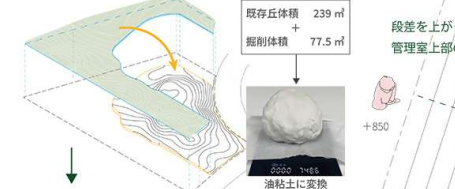


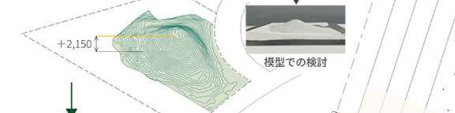


公園の改築し、丘を中心とする居場所をつくる

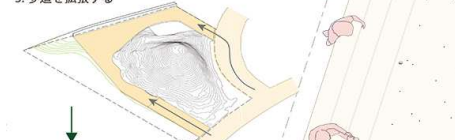
1. 盛り上げりをカットする



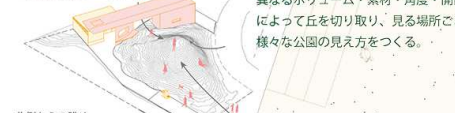
2. カットした土を丘に盛る



3. 歩道を拡張する



4. 利用の場をつくる



北側からの眺め

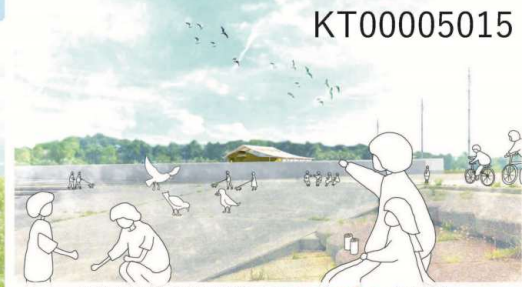
東側からの眺め



小さな丘の 大きな屋根

対象敷地の周りは、「広大な海」「大勢の人でにぎわう祭り」「多様な活動が自由に行われる公園」のような、広大で非常におおらかな環境が広がっています。建物が機能や敷地という枠組みを飛び越えて、蒲郡の持つおおらかさと滑らかに接続する体験をすることが出来る「小さいけど大きなトイレ」を提案します。

KT00005015



海岸からは大屋根が蒲郡のおおらかな風景の一部となる



公園側からトイレへと続く道は、海への視線の抜けと風の通り道となる。

大屋根が繋ぐ蒲郡のおおらかさ

対象敷地となる丘の上に地形と連続するような、たおやかな大屋根を掛けます。大屋根は蒲郡の新たな風景となり、作り出されるおおらかな影は、トイレという小さな体験を広がりあるものへと変化させます。



基礎の上で一息つく

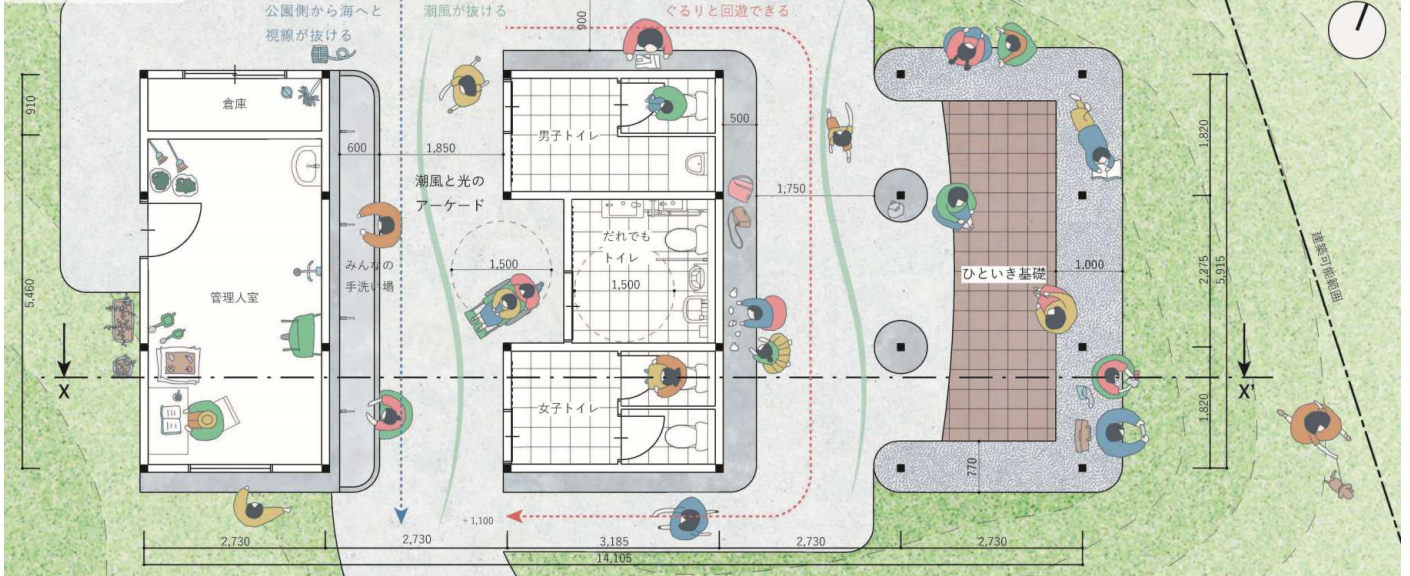
地形と一番初めにふれあう建物の部分であり、本提案における大屋根を支えるものである「基礎」に一息つけるような間取りを考へて設計しました。これによって丘とトイレ、そして人が緩やかに間わり合えるような場を作りました。



配置図 1/150

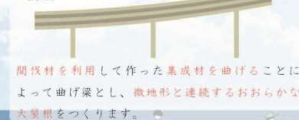


平面図 1/50

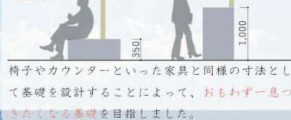


X-X' 断面図 1/100

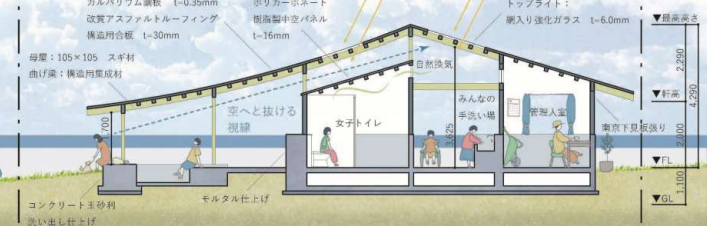
・構造



・基礎



X'



X

公園・まち・海を望む大きなトイレ

蒲郡が三河湾を囲うように、壁と室で囲われた大きなトイレを提案します。公園、まち、海に面するようにして配された壁は、周囲に対しては視点をつくり、内に対しては緩やかにトイレを囲います。4つの室とそれを繋ぐ壁によって様々な居場所が生まれ、この敷地は公園のトイレでありながら休憩所のように使われます。

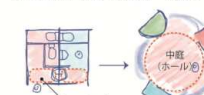


■がまごおりし建築 海を囲うまちの、囲われたトイレ



がまごおりしは山を背に、三河湾を囲う場所です。緩やかな一体感をもつこのまちに、大きく囲われた半中庭型トイレを提案します。

■公園トイレのあり方について 小さなトイレを大きく使う



トイレから手洗い部分（ホール）を取り出し、大きなホール（中庭）として共有するトイレをつくります。

■トイレと周辺との関係 壁と室で周囲への視点をつくる



周囲への視点をつくるように3つの壁を配置します。

■公園全体におけるトイレの位置づけ 公園に一息つける居場所



開放的にトイレをつくることで、この区画をトイレと休憩所を兼ねた一息つける場所として考えます。

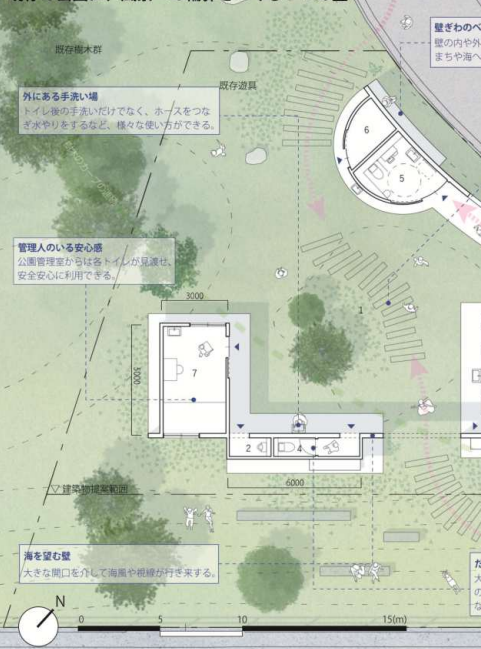
■汎長性のあるプランニング コストに応じて変更が可能なプラン



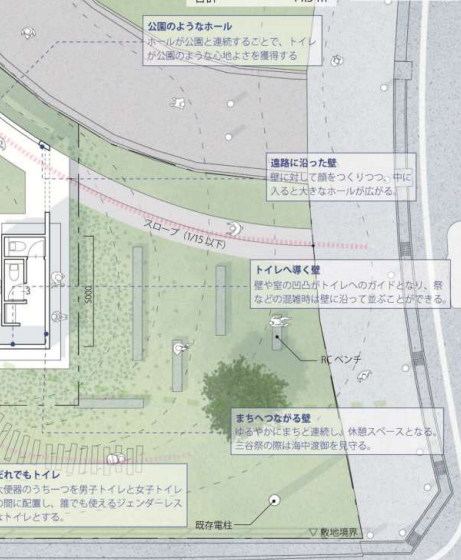
この建築は4つの室を壁で繋ぐシンプルな案のため、今後の建築費の高騰や地域住民の方とのWSに合わせて、提案の魅力を損なうことなく設計変更が可能です。

■断面詳細 (S=1/150)

既存の公園に、風景への輪郭をつくる3つの壁



■面積表	
男子トイレ	6.0㎡
女子トイレ	10.0㎡
多機能トイレ	8.6㎡
公園管理室	15.3㎡
倉庫	4.4㎡
合計	44.3㎡



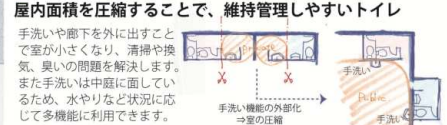
■断面詳細 (S=1/75)

壁と室と底による単純な構造



厚さ200mmの壁に室や底が張り付くシンプルな構造です。また既存トイレ解体時のコンクリート瓦礫を軒下の雨受けとして再利用します。

■トイレとしての衛生管理 屋内部積を圧縮することで、維持管理しやすいトイレ

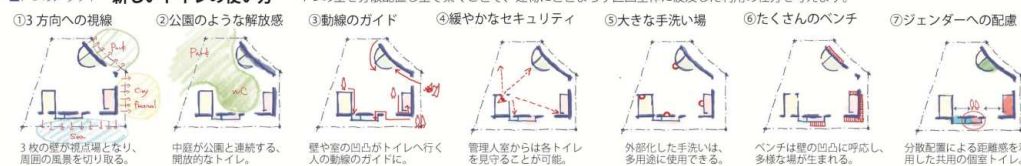


■線の計画 周囲とつながる開口



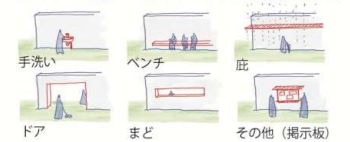
■7つのメリット

新しいトイレの使い方



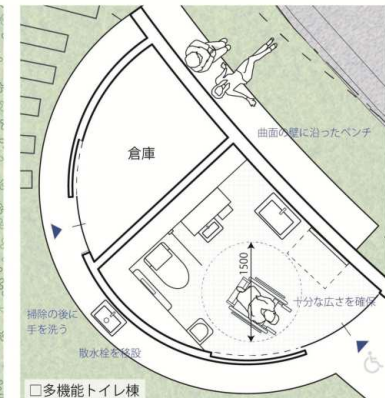
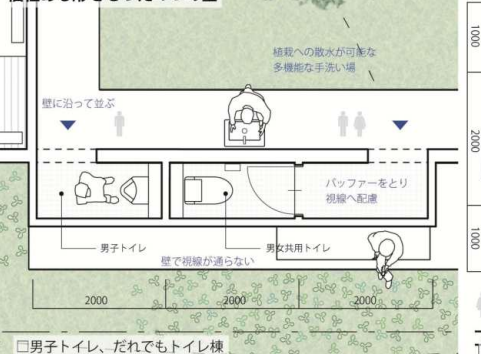
■壁の使用例 多様な使い方ができる壁

壁はトイレの機能だけでなく、ベンチなどでも使用できます。



■断面詳細 (S=1/50)

個性ある形をもった4つの室



まちのリビングルーム

KT00010504

三谷の人々が積み重ねてきた歴史や文化、人とのつながり方を再び引き出すような公園施設を提案します。公園内に散らばるちいさいですが、トイレを利用する様々な人の時間をゆっくりとゆるやかに受けとる。雨に人々の時間は絡まり合います。



1. 海辺で育まれてきた風景

公園前に広がる海はかつて三谷海水浴場として三谷の人々に親しまれてきました。三谷の人々は気持ちの良い過ごし方や人との関係を海辺を通して育んできました。しかし現在は砂浜はコンクリートで覆われて道路として機能し、海は近いのにどこか遠く離れたような印象があります。

(写真: 三谷町保存委員会「今昔の三谷」)



三谷の人々が本当は知っている、かつての海辺での思い思いの過ごし方を引き出し、街の中のリビングルームのように過ごせる公園の姿を提案します。

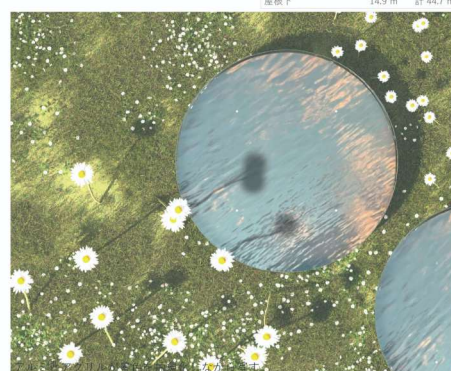
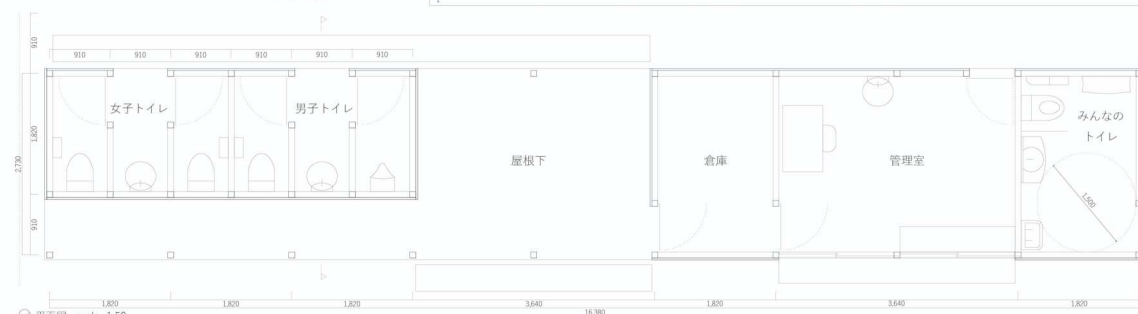
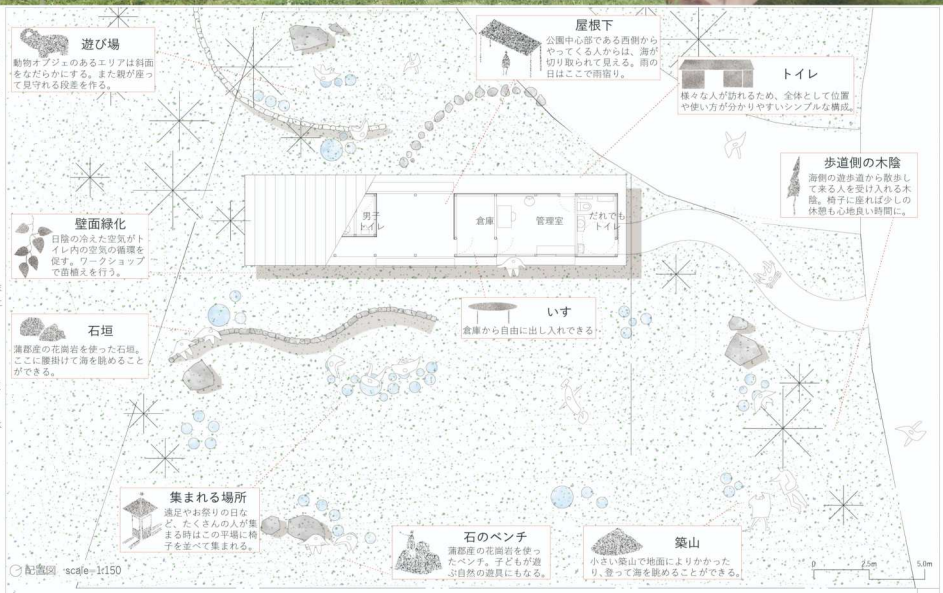
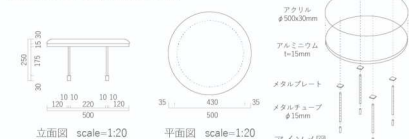
2. ランドスケープが作る休憩場所

また、周囲のランドスケープは訪れた人が体験しながら関わり方を導いてくれるような場を目指します。何回も来るうちに、自分で歩きまわって見つけた場所が好きなように過ごせることができるように地元の素材や植栽などで多様な居場所をつくっています。

3. 小さな、大きな空間

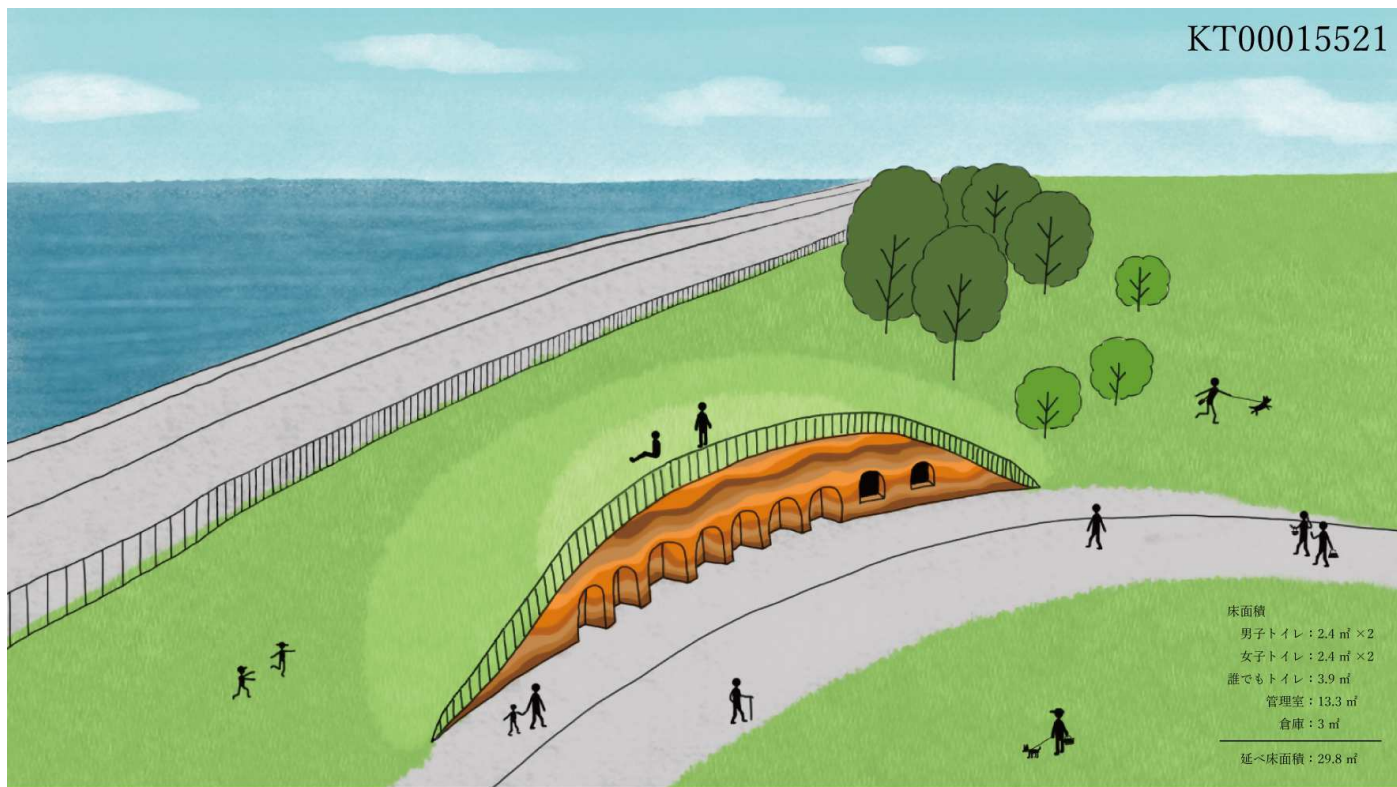
ランドスケープに合わせて、公園を楽しむためのいすを提案します。軽く好きに持ち運べるいすは公園内の好きな場所に運んでいけます。通足やお祭りなど、人が多く集まる日にはたくさん並べて、親しい人と遊びに来た日は小さく寄せ合って使えます。

こうしてうちに、個人的な時間を過ごす空間であるトイレのまわりに大きなリビングルームのようなまとまりを持った原っぱが現れます。



南側から見た様子

海側遊歩道から見た夕景



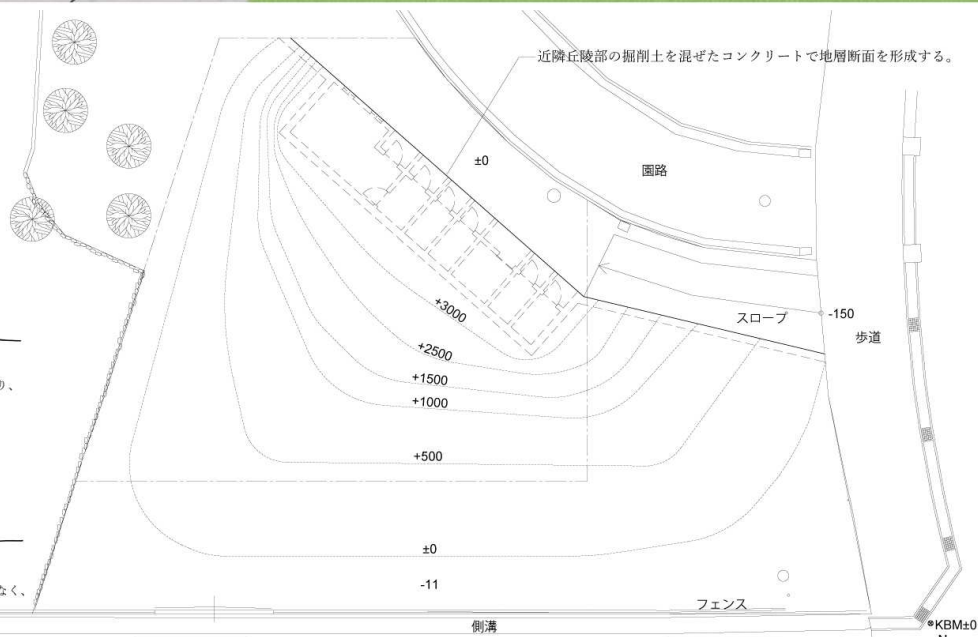
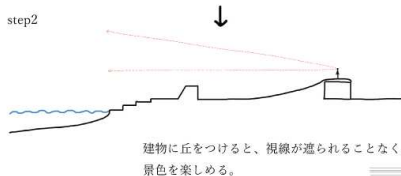
風通る、この丘で

海が見えるこの丘でホッと一息。
 海風にあたりながら、心休まるひと時を。
 丘の上を歩いたり、寝転んだり、自由に。
 一人で来ても、誰かと来ても。
 それぞれの時間を過ごせるのがこの丘です。

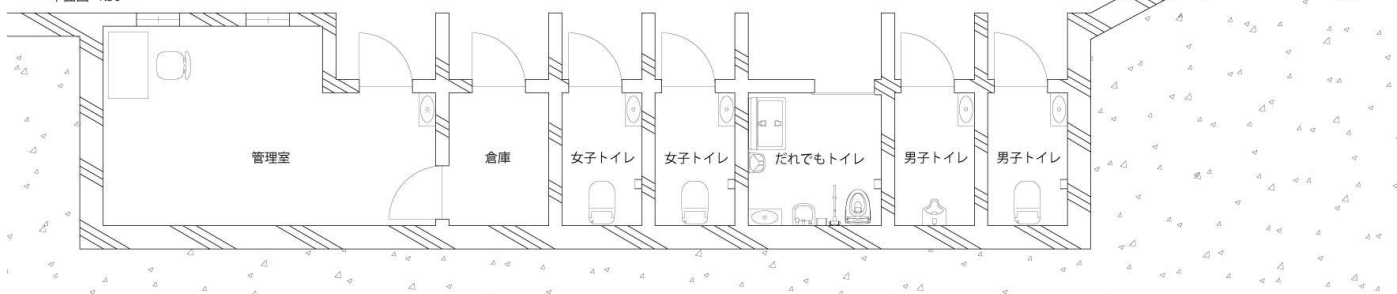
step1



step2



平面図 1:50



断面図 1:150

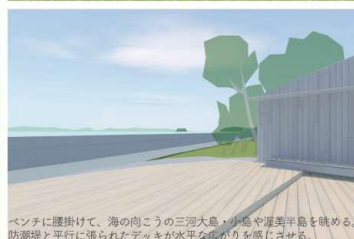


風景の透き間

ひとつの家形をつくるように、並んで建つふたつの片流れ。
両者の間は奥行きがなくなったようにぽっかりと抜け、伸びやかな海沿いの風景が透いています。
壁を抜けるかと視界が開け、水平な床と防潮堤の先には、山々に囲まれた三河湾の景色が広がっています。



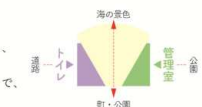
2棟の間は、海側に向かって大きく広がる舞状のデッキ。
丘から降り出すようにスロープが生まれ、みんなが景色を楽しめる。



ベンチに腰掛けて、海の向こうの三河大島・小島や渚美半島を眺める。
防潮堤と平行に張られたデッキが水平な広がりを感じさせる。

2つの機能、あいだの空間

トイレと管理室を2つのボリュームに分けて配置し、
中央に町と海をつなぐ外部空間を設けます。
それぞれの入口を分けて背中合わせに配置することで、
互いを気にしすぎず、落ち着いて使用できます。



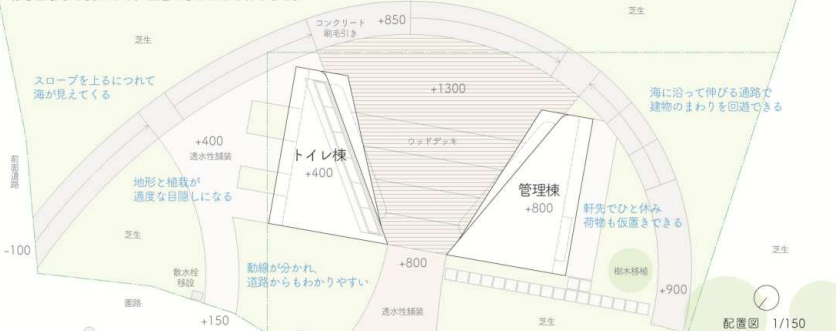
町から引き込み、海に向き合うかたち

海側に大きく削られた平面形状により、
道路や園路などさまざまな角度から海が見え、
海へ向かう軸線を強く感じられます。
2棟のベンチはそれぞれ三谷温泉のある乃木山、
遠くの渚美半島や三河大島・小島に向いており、
三河湾の広がりを楽しむことができます。



行き止まりのない動線

機能別に分かれた入口とそれらを結ぶ円弧状の通路が、
行き止まりや裏がなく、回遊できる動線を作ります。



周囲とつながる3つの仕上げ

強風と塩害に配慮し、堅牢な鉄筋コンクリート造を採用します。
コンクリートを現した外壁は3つの面で表面の仕上げを変えることで
各々を際立たせ、同時に周囲のものと同様関係を作っています。



《外側》清潔感のある打ち放し
防潮堤とつながりを感じられる



《公園・町側》コンクリートの骨材が現された洗い出し仕上
まわりの道路や砂利と同じ青緑色の石が海や木々にもなじむ



《内側》木目が転写された板型枠打ち放し
床のデッキとともに居場所を包みこむ

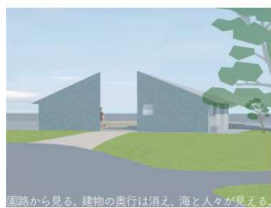
なだらかな丘

地面の起伏の調整により、園路からの急傾斜は和らぎ、デッキからは座っていても海が見えます。
トイレは懸土を利用した丘にわずかに埋まったように作り、周辺の開放感を損わずに目隠しをします。



階段を上につれて視界が開けてゆく
座っていても、防潮堤の向こうの海が見える

延床面積	36.10㎡
トイレ棟	18.05㎡
男子トイレ	5.23㎡
女子トイレ	7.61㎡
だれでもトイレ	5.21㎡
管理棟	18.05㎡
公園管理室	15.24㎡
倉庫	2.81㎡
構造	壁式鉄筋コンクリート造
基礎	ベタ基礎



園路から見る。建物の奥行きは見え、海と人々が見える。



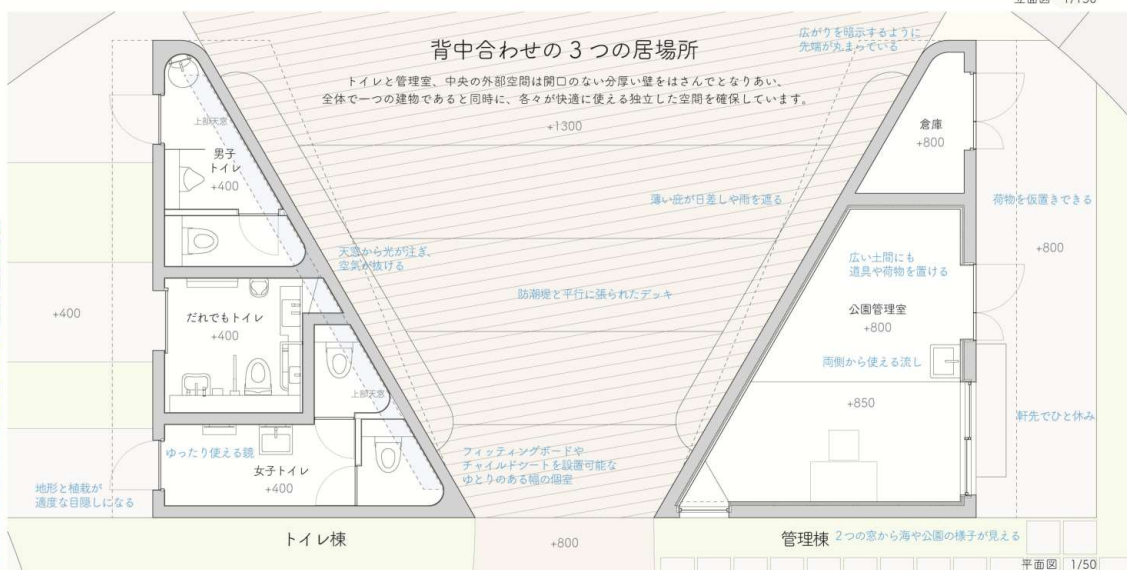
ベンチに座ると正面に乃木山と三谷温泉街が見える。



銀色のタイル貼りの曲面壁が天窓からの光を拡げる。

背中合わせの3つの居場所

トイレと管理室、中央の外部空間は開口のない分厚い壁をはさんでとなりあい、
全体で一つの建物であると同時に、各々が快適に使える独立した空間を確保しています。



低い軒、高い天井

片流れの屋根形状を活かし、
入口は高さを抑えて控えめにさせ、
内部は天井高を確保します。
トイレ棟の頂部には天窓を設け、
光と風の動きを取り込みます。



断面図 1/100